

堀内さん  
初質問

# 被災者追い出しやめよ

## 復興公営住宅 声・実態示し迫力の追及



堀内照文衆院議員は26日、衆院予算委員会で初質問に立ち、阪神・淡路大震災から20年を経た今も被災者が厳しい状況に置かれている実態を示し、被災者向け公営借り上げ住宅からの追い出し中止、災害援護資金の返済免除、住宅再建支援法の拡充を要求。「(自治体には)丁寧な対応をお願いしたい」などの答弁がされました。

### ●自民支持者「中身の面白い質問」の電話

落ち着いた中にも熱い思いを込めた質問には、自民党支持者と名乗る人から「民主党は足引引っ張りだが、中身の面白い質問だった」との電話が入り、「これが初質問とは、大したものだ」の声も出ました。

### ●復興公営住宅問題

□堀内「公営住宅などでの孤独死は1000人を超えた。震災で助かった命が失われる深刻な事態。住宅借り上げ期限、20年が来るが、期限があることを知らされなかった人も多い」「西宮市は全員に退去を求め、期間満了日までに明け渡さないと賠償を求めるとの通知を出し、神戸市は職員が退去を求め、ドアをたたき、玄関先で大声で名前を呼ぶ一追い出しとしか言えない」→太田国交相「入居者の居住の安定の確保は非常に大事。借り上げ復興住宅を運営する地方公共団体は丁寧に対応を」

□堀内「5万円の年金暮らしの神戸市の単身女性。入居継続ができる85歳まで1カ月足りない。今はスーパーも病院も近いから暮らせている。こういう人に住み替えを迫ること自体が生活基盤を破壊する」→太田「20年でバシッと切られている訳ではない。兵庫県や市に対して今日出た、例も出して丁寧な対応をしていただきたい、と思っている」→堀内「行政が持ち込んだ基準で線引きするのでなく、一人一人の実態を考慮し、希望者全員の継続入居へ国の責任を果たせ」

### ●被災援護資金返済の免除問題

震災当時、生活再建支援法はなく、被災者は災害援護資金に頼らざるを得ませんでした。その返済に多くの被災者が苦しんでいます。国は新たな免除制度をつくりましたが、ムリを重ねて少額返済をしている人は対象になっていません。

□堀内「地元紙では少額返済の場合、月1000円、完済まで147年と報道されている。いつまでも被災者に重い荷物を背負わせるわけにはいかない。自治体の判断を尊重し弾力的運用を」

### ●生活再建支援法の拡充を

□堀内「東日本大震災の被災者から住宅本体への支援を300万円から500万円に引き上げをなどの声が上がっている」→山谷防災担当相「他の制度とのバランスがあり慎重な検討が必要」→堀内「被災者生活再建支援法は阪神・淡路大震災のときにはなかった。いまこの支援が行き渡っているが、阪神・淡路の被災者から自分たちとバランスを欠いているという声は上がっていないではないか。バランスなどという理屈を言っている限りは新しい制度はできない。拡充を重ねて求める」

### ●議場聞き入る

質問に議場はじっと聞き入り、予算委員会の中心人物は何度もうなずき、「追い出しはひどいよなー」と言いながら議場を出ました。閣僚からも称賛の声が出されました。

### ●兵庫から4人が傍聴

傍聴した阪神・淡路大震災救援・復興兵庫県民会議の岩田伸彦事務局長は「共産党の議員には何度も質問してもらっているが、一緒にやってきた仲間が質問できて本当にうれしい」と話しました。